

～海洋資源を活用した「横浜ブルーカーボン」～
本市独自の制度による

取組拡大中！

横浜ブルーカーボン・オフセットを実施します！

横浜市は、海洋資源を活用した温暖化対策プロジェクト「横浜ブルーカーボン」において、横浜市独自のカーボン・オフセット制度の運用を平成26年度から行っています。これまで、地元の企業・団体の「わかめの地産地消」等によるCO₂削減効果を活用し、市内で開催されたトライアスロン大会等で排出されたCO₂のカーボン・オフセットを行ってきました。

このたび、平成30年度の横浜ブルーカーボン・オフセットの実施に伴い、「第7回ブルーカーボン・シンポジウム in 横浜」を開催し、取組を紹介します。

今年度は、新たなクレジット創出方法として、重油を燃料とするディーゼルエンジンと電動モータをバランスよくマッチングさせて、環境へ配慮した曳船を可能にした「ハイブリッドタグボートの導入」によるCO₂削減効果を導入しました。また、カーボン・オフセット実施団体として、新たに5企業が加わります。



🚢 第7回ブルーカーボン・シンポジウム in 横浜

～「横浜ブルーカーボン・オフセット制度」参加者による取組紹介等～

日時：平成31年2月21日（木）

10時30分から12時30分まで

会場：大さん橋ホール

（「海と産業革新コンベンション（うみコン2019）」会場内）

主催：横浜市

* 当日取材希望の方は、2月20日（水）午後5時までに、裏面の問合せ先にご連絡ください。

* 「横浜ブルーカーボン・カーボンオフセット制度」参加者による取組紹介は、シンポジウム後半に行います。



🚢 カーボン・オフセットとは

自らの温室効果ガス排出量を把握し、できるだけ排出量の削減努力を行ったうえで、どうしても削減できない量の全部又は一部を他の場所での排出削減・吸収量（クレジット）で相殺（オフセット）することです。



「横浜ブルーカーボン・オフセット制度」では、横浜市域のブルーカーボンまたはブルーリソースによる温室効果ガスの吸収量の増大及び排出量の削減を取引可能なクレジットとして認証しオフセットを促進するとともに、その販売代金の活用によって海の環境活動の更なる推進を目指しています。

🚢 ブルーカーボン・クレジット創出事業（平成 30 年度活用分）

わかめの地産地消による CO₂ 削減事業

- **NPO 法人海辺つくり研究会** **1.0t-CO₂**
- **横浜市漁業協同組合** **20.5t-CO₂**
- **株式会社横浜八景島** **0.7t-CO₂**

認証対象：わかめを市外から搬入せずに市内産を生産・消費することにより CO₂ 削減に貢献する量

海水ヒートポンプの更新による CO₂ 削減事業

- **株式会社横浜八景島** **0.8t-CO₂**
- 認証対象：年間を通じて温度が安定している海水のエネルギーを活用した先進的なヒートポンプの導入によって得られる省エネ効果による CO₂ 削減に貢献する量

LNG 燃料タグボートへの代替による CO₂ 削減事業

- **株式会社ウィングマリタイムサービス** **55.4t-CO₂**
- 認証対象：重油よりも燃焼時の CO₂ 排出量が少ない LNG（液化天然ガス）を燃料とするタグボートを導入することで CO₂ 削減に貢献する量

<新規>

ハイブリッドタグボートへの代替による CO₂ 削減事業

- **株式会社ウィングマリタイムサービス** **86.0t-CO₂**
- 認証対象：重油を燃料とするタグボートにおいて、効率の悪い低出力域を電動モーターでアシストすることにより、ディーゼル主機関の重油使用量を減少させることで、CO₂ 削減に貢献する量

🚢 ブルーカーボン・オフセット実施イベント・企業（平成 30 年度活用分）

● 第 9 回横浜シーサイドトライアスロン大会

5.5t-CO₂

算定対象：大会出場者の会場までの往復移動、運営関係者の会場までの往復移動、大会会場におけるエネルギー使用

● 2018 世界トライアスロンシリーズ横浜大会

33.8t-CO₂

算定対象：大会出場者の会場までの往復移動、運営関係者の会場までの往復移動、大会会場におけるエネルギー使用

● 石井造園株式会社

10.0t-CO₂

算定対象：石井造園株式会社の事業（平成 30 年 1 月 1 日～12 月 31 日）に伴う水道、ガソリン・軽油、電気の使用

● 株式会社大川印刷

1.0 t-CO₂

算定対象：平成 30 年度の印刷事業全体に係る CO₂ 排出量の一部

● 株式会社丸井グループ

1.0t-CO₂

算定対象：プライベートブランド商品 54 種の対象期間内での売上点数分の原材料の調達、生産、輸送、販売、リサイクル等に係る CO₂ 排出量の一部

● 株式会社横浜フリエスポーツクラブ（横浜 FC）

3.6t-CO₂

算定対象：平成 30 年 9 月 1 日の試合来場者 1 人あたりの排出量を 1kg-CO₂ としたときの排出量

<新規>

● 竹中・西松建設共同企業体

86.0t-CO₂

算定対象：横浜市市庁舎移転新築工事において発生する産業廃棄物（汚泥）の運搬に係る CO₂ 排出量

● 株式会社ダイイチ

18.2t-CO₂

算定対象：

- ・横浜 FC のエスコートキッズが着用する T シャツ 350 枚の製造工程と、清掃用ベスト 100 枚における縫製時の電力・輸送に係る CO₂ 排出量 **(2.2t-CO₂)**
- ・公益財団法人横浜市体育協会が運営管理する 16 スポーツセンターに販売するカーボンオフセット・ネックストラップの製造に係る CO₂ 排出量 **(16.0t-CO₂)**

● 横浜消火器株式会社

2.3t-CO₂

算定対象：いそごどもエコフェスタ 2018 における来場者 1 人あたりの排出量を 1kg-CO₂ としたときの排出量

● みなとみらいスマートフェスティバル

2.0t-CO₂

算定対象：みなとみらいスマートフェスティバル 2018 における発電機の燃料使用、施設の電気使用、及び廃棄物処理に伴う CO₂ 排出量

● 株式会社湘南貿易

1.0t-CO₂

算定対象：平成 30 年 12 月 2 日に開催された、第 13 回湘南国際マラソンにおけるエコ袋（荷物袋）1 枚につき、200g-CO₂ 排出権を付与

合計 **164.4t-CO₂** 分のカーボン・オフセット！

【横浜ブルーカーボン】

海洋に生息する生き物によって吸収・捕捉される炭素を「ブルーカーボン」といいます。

『横浜ブルーカーボン』では、「ブルーカーボン」に加え、海洋におけるエネルギー等の利活用を「ブルーリソース」と名付け、これらを一体として温暖化対策に取り組み、さらに、海辺環境の魅力を向上させることで「親しみやすい海づくり」を目指しています。



～クレジットの売却益は、横浜の海の環境活動推進に活用されています～

お問合せ先

温暖化対策統括本部プロジェクト推進課長 岡崎 修司

Tel 045-671-2636

2/21
2019

in Yokohama



blue carbon symposium

第7回 ブルーカーボン・シンポジウム

in 横浜

海洋都市 横浜の目指す 持続可能な社会

🕒 日時 平成31年2月21日(木)
10:30-12:30

📍 場所 大さん橋ホール
(「うみコン2019」会場内)
横浜市中区海岸通 1-1-4

参加費 ▶▶ 無料

主催 ▶▶ 横浜市

※「うみコン2019」に事前にご登録いただくとスムーズに入場できます。



「うみコン2019」と同時開催!

海と産業革新コンベンション(うみコン2019)

🕒 日時 平成31年2月20日(水) - 21日(木)
10:00 - 17:00

📍 会場 大さん橋ホール(横浜港大さん橋国際客船ターミナル)

👤 主催 海洋都市うみ協議会/横浜市/
海と産業革新コンベンション実行委員会

内容紹介 ●●●

水産、海洋資源、再生可能エネルギーなどをテーマに企業、研究機関、大学等のブース出展、最先端の研究成果や海洋に関する幅広い分野の講演、パネル・製品展示、交流スペース等

URL <http://www.umi-con.com/>

〈お問い合わせ先〉 横浜市温暖化対策統括本部 プロジェクト推進課
Tel 045-671-4109 E-mail on-ygv@city.yokohama.jp



みんなで育てよう、地球を守る海の力。

🚢 プログラム

10:15

開場

10:30

開会あいさつ

横浜ブルーカーボン事業について 横浜市温暖化対策統括本部

10:45

講演1 「気候変動問題へのブルーカーボンの貢献」

公益財団法人 笹川平和財団 海洋政策研究所
主任研究員 角田 智彦 氏

11:00

講演2 「私たちの身近な海辺における炭素貯留量評価の試み」

国立研究開発法人国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター
生物系機能評価研究室 主任研究員 矢部 徹 氏

11:20

講演3 「鉄鋼スラグ製品による海域環境改善への取組」

一般社団法人日本鉄鋼連盟 鉄鋼スラグ海域利用促進 WG
主査 松本 剛 氏
(JFEスチール(株)スラグ事業推進センター スラグ企画部長)

11:40 - 11:45 休憩

11:45

「横浜ブルーカーボン・オフセット制度」取組紹介

12:30

閉会

🚢 横浜ブルーカーボン事業

横浜市は、海洋資源を活用した温暖化対策プロジェクト「横浜ブルーカーボン」に平成23年度から取り組んでいます。「ブルーカーボン」とは、海洋に生息する生き物によって吸収・捕捉される炭素のことをいいます。

「横浜ブルーカーボン」では、「ブルーカーボン」に加え、海洋におけるエネルギー等の利活用を「ブルーリソース」と名付け、これらを一体として温暖化対策に取り組み、さらに、海辺環境の魅力を向上させることで「親しみやすい海づくり」を目指しています。

平成26年度からは、本市独自のカーボン・オフセット制度（「横浜ブルーカーボン・オフセット制度」）の運用を行っており、「地元産わかめの地産地消」と「海洋ヒートポンプの導入」によるCO₂削減効果で、クレジット（CO₂の削減量・吸収量）を創出してきました。今年度は、新たに「ハイブリッドタグボートの導入」によるCO₂削減効果を加えてクレジットを創出し、スポーツイベント等の開催で排出されたCO₂のオフセット（埋め合わせ）を行っています。シンポジウム後半で各取組について紹介いたします。

※カーボン・オフセット…自らのCO₂等の温室効果ガス排出量のうち、どうしても削減できない量の全部又は一部を、他の場所での排出削減・吸収活動に投資することによってオフセット（埋め合わせ）する事を言います。



◆ 注意事項 ◆

本イベントの内容を予告なく変更する場合がありますので予めご了承下さい。
プログラムの追加、訂正は随時横浜市 Web ページにてご案内します。
<http://www.city.yokohama.lg.jp/ondan/ygv/bluecarbon/>



7th blue carbon symposium